

城南家保ニュース Vol.27-10

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町一本杉 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

E-mail jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp

ホームページ <http://www.pref.kumamoto.jp/kahojounan>



新年あけましておめでとうございます！



旧年中は家畜保健衛生業務への多大なる御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございました。おかげさまで管内での悪性伝染病の発生もなく、穏やかな正月を迎えることができました。まだまだ油断のできない状況が続きますが、今年も総勢11名のスタッフが一丸となり、管内の伝染病予防や生産性向上に取り組んでいきますので、よろしくをお願いします！

アルボウイルスによる異常産を予防しましょう

アルボウイルス (Arbovirus) とは、蚊、ヌカカ、ダニなどの吸血節足動物によって媒介されて動物に感染するウイルスの総称です。このうち牛に異常産（流産、奇形、神経症状など）を引き起こすものとしては、アカバネ、アイノ、チュウザンなどのウイルスがあり、ウシヌカカ、イエカによって媒介されることが知られています。これらのウイルスによる異常産は、しばしば大規模に流行して甚大な経済的被害をもたらすため、届出伝染病に指定されています。

症状について

流産、関節の湾曲などの明らかな異状がみられる場合と、外見的には異状がないにも関わらず、起立不能や虚弱を呈する場合があります。ウイルスの種類や感染の時期などで症状が異なるため、疑わしい症状がみられた場合は、かかりつけの獣医師に御相談ください。なお、感染した母牛自体は、ほとんどが無症状です。

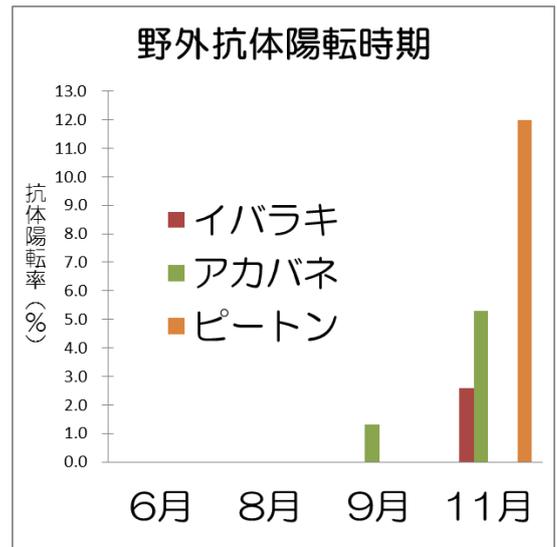


アカバネ病による前肢湾曲

今年度の異常産関連ウイルスの動きについて

本県では毎年、夏を経験していない子牛を県下全域から80頭選定し、6月～11月に計4回の採血を行い、各ウイルスの存在の有無とウイルスに対する抗体の動きを調査しています。抗体の上昇がみられた場合は、又カカ等の活動により子牛が感染したものと判断され、これらによってウイルスの流行予察を行います。

今年度の調査結果では、昨年9月から11月にかけて、イバラキ、アカバネ、ピートンの各ウイルスが動いた形跡があります。特にアカバネについては他県でも同様の動きがみられており、今後異常産の流行を引き起こす可能性があります。



ワクチン接種による異常産の予防について

「異常産3種混合不活化ワクチン」を適切に接種することにより、アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症を予防することができます。また、抗体を保有する牛が増えることで、ウイルスの侵入や増殖を抑える効果も期待できるため、地域全体でワクチン接種の推進に取り組む事が重要になります。接種方法については以下をご覧ください。

対象 妊娠牛および年内種付け予定牛
接種時期 3月～6月
接種回数 初めて接種する牛は4週間隔で2回、前年に接種している牛は1回
 ※ 前年に接種していない場合は、経産牛でも2回する必要があります
 詳しくは家畜保健衛生所または城南地区家畜自衛防疫促進協議会 (28-3234) まで

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

病名	発生地	発生日	畜種	型
高病原性 鳥インフルエンザ	韓国	11月13日～11月15日	あひる	H5N8
		9月14日	がちょう	H5N8
		11月16日～11月24日	地鶏	H5N2
	台湾	12月7日	地鶏・鶏	H5N2
		12月7日	地鶏	H5N8
		12月14・15日	がちょう・地鶏・七面鳥	H5N2
		12月21日	地鶏	H5N2
		12月21日	がちょう	H5N8
		12月24日	鶏	H5N8

編集後記 (K.S)

1月4日現在

ウイルス性異常産は忘れた頃に流行するので、毎年の確実なワクチン接種が重要です。お金も労力もかかりますが、1頭の流産を予防できれば十分に元をとれるレベルなので、油断せずに続けていただきたいと思います。